





# 今、この瞬間も、 ピースウィンズ・ジャパンのスタッフは 世界中で課題解決の最前線に 立っています。

# ANNUAL REPORT 2019

2019.2.1-2020.1.31

特定非営利活動法人  
ピースウィンズ・ジャパン  
年次報告書

## ご挨拶

2019年度のピースウィンズ・ジャパン(PWJ)の活動をまとめた年次報告書が完成しました。日頃の温かいご支援とご協力に対し、この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

今年度は、私たちが恐れていた事態がまさに起こり始めた年でした。豪雨の規模が大きく強くなり、頻発するということです。PWJは2018年、西日本豪雨災害の支援を実施しましたが、2019年も残念ながら九州北部豪雨、台風15号・19号と大きな被害が発生しました。水害が毎年のように起きる時代になってきたといえます。

一方で、日本は地震の活動期に入っており、いつどこで大きな地震が起こってもおかしくありません。更に、2019年度の終わりから感染症が広がり、それだけでも社会や経済に大きなダメージを与えています。水害・地震・感染症、この3つが複合的に起こることを想定し、PWJは準備・トレーニングを始めています。災害に関してはほぼ全ての大規模災害に出動し、医療支援、物資支援、避難所運営支援などを行っているほか、レスキューチームによる訓練を定期的に行っています。

また、5年前にエボラ出血熱対策のプロジェクトを西アフリカで実施した経験などを生かし、2020年の新型コロナウイルス対策緊急支援では迅速に対応することができました。

PWJは2019年12月、災害緊急支援プロジェクト「空飛ぶ捜索医療団」を発足させました。より能力を高め、

一秒でも早く一人でも多くの命を守るために、感染症を含めた今後の災害に立ち向かいます。

海外では、19の国と地域で活動しました。増え続ける難民に新型コロナウイルスの危機が迫っていますが、PWJが得意とする事業の中には感染症対策に有用なものがたくさんあります。私たちは手をこまねいてのではなく、海外でも全力で支援を続ける決意です。

保護犬事業では、譲渡数が着実に増えシェルター内の犬の頭数は安定してきています。2019年末には、新しい家族を迎えられ残りの犬生を幸せに過ごす卒業犬たちが2,000頭を超えました。これも支えていただいた皆さまのおかげです。今後も引き続き、オンライン譲渡会など新しい試みも取り入れ、譲渡に力を入れて参ります。

PWJは2020年度も立ち止まることなく、あらゆる課題の解決に挑みます。引き続き、ご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

2020年5月  
代表理事兼統括責任者  
大西 健丞



## Topics in 2019

国際協力はもちろん、国内の社会問題解決を目的とした活動および災害支援活動にもより力を入れて取り組みました。

3月 サイクロンで大きな被害が出たモザンビークで緊急支援を開始

4月 大規模な山火事が発生した韓国で緊急支援を開始



雷雨で大きな被害が出たネパールで緊急支援を開始

8月 九州北部豪雨の発生を受け、緊急支援を開始

9月 令和元年房総半島台風(台風15号)発生を受け、緊急支援を開始



10月 令和元年東日本台風(台風19号)発生を受け、緊急支援を開始



12月 ARROWS(空飛ぶ捜索医療団)始動

12月 保護犬の累計譲渡数が2,000頭を突破



## Contents

P.02	挨拶
P.03	TOPIC / 目次
P.04	数字で見る3つの活動
P.06	支援事業MAP
P.08	海外事業 / インタビュー
09	イラク / シリア / パレスチナ /
10	アフガニスタン / ウガンダ
10	南スーダン / ケニア / モザンビーク /
11	エチオピア / ハイチ
11	スリランカ / ミャンマー / ネパール /
12	バングラデシュ / インドネシア
12	東ティモール / モンゴル / 韓国 / 中国
P.13	災害支援事業 / インタビュー
14	東北復興支援 / 西日本豪雨被災者支援 /
14	九州北部豪雨被災者支援 /
15	台風15号被災者支援
15	台風19号被災者支援 / 空飛ぶ捜索医療団
P.16	ピースワンコ事業 / インタビュー
17	犬・猫の保護・譲渡事業 / 全国の施設
P.18	地域創生事業
	佐賀 / ピースワラベ /
	地域創生(広島県神石高原町) /
	地域創生(瀬戸内・豊島)
P.19	団体情報 / 法人寄付
P.20	企業や団体からのご支援
P.21	会計まとめ
P.22	会計報告

### 3 ACTIVITIES AND THEIR NUMBERS

# 「必要な人々に、必要な支援を」

私たちピースウィンズ・ジャパンはこの言葉を合言葉に、国内外を問わず、あらゆる社会問題に取り組んでいます。活動は大きくわけて、「海外事業」「災害支援事業」「犬・猫の保護・譲渡事業(ピースワンコ・ジャパン)」の3つに分類することができます。また、佐賀伝統工芸振興支援や過疎地での診療支援など地域創生事業にも取り組んでいます。



# 1

OVERSEAS OPERATIONS

## 海外事業

1996年から紛争や貧困、災害などによる人道危機や生活の危機にさらされた人びとの支援を続けており、これまでに世界33の国と地域で活動してきました。



TOTAL SUPPORTING COUNTRIES

累計支援国

# 33の国と地域

TOTAL BENEFICIARY

累計受益者

# 15,343,086人

NATIONALITIES OF STAFF

スタッフ国籍

# 21カ国

日本、アメリカ、イギリス、イラク、オーストラリア、ネパール、マケドニア、アフガニスタン、ウガンダ、ロシア、南スーダン、シエラレオネ、ケニア、ハイチ、スリランカ、ミャンマー、ネパール、インドネシア、東ティモール、中国、韓国 (2019年度)

# 2

EMERGENCY DISASTER RELIEF

## 災害支援事業

一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、レスキュー活動から医療・物資・避難所運営支援などを被災地で実施する事業です。



TOTAL FREQUENCY OF DISPATCH

累計出動回数

# 24回

(2014年度以降/事故での出動4回を含む)

AVERAGE TIME OF ARRIVAL

対策本部設置からの平均現地到着時間

# 8.5時間

(移動中の宿泊時間含む)

NUMBER OF MACHINES

保有機材数

# 19機・台

ヘリ3機、水陸両用車2台、災害出動可能な車13台、ユニック1台

# 3

PEACE WANKO

## ピースワンコ事業

人間の身勝手によって生み出される犬・猫の殺処分をなくし、ペットと人間の共生を実現する目的で運営される、犬・猫の保護・譲渡事業です。



TOTAL HANDOVER

累計ワンコ譲渡数

# 2,050頭

(2020年1月末現在)

HANDOVER EVENT

譲渡会開催・参加数

# 185回

(2019年度)

NUMBER OF DAYS NOT KILLED IN HIROSHIMA

広島県で犬の殺処分機が動いていない日数

# 1,400日間

(ガス室による殺処分)

## PEACE WINDS JAPANは

SINCE 1996

設立から

# 24年

NUMBER OF STAFF

スタッフ数

# 392人

(2020年1月末現在)

NUMBER OF SUPPORTERS

PWJへの支援者数

# 61,918人

(2019年度)

NUMBER OF RELEVANT SDGS

関連SDGs数

# 16個

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



(2019年度)



# ACTIVITIES IN 2019

ピースウィンズ・ジャパンは2019年度、日本を含む20の国と地域で活動し、1,205,480人の方々に支援を届けました。

## 2019年度の支援事業一覧

国/地域	支援内容	実施場所	受益者
IRAQ イラク	支援内容	実施場所	受益者
シリア難民支援	インフラ整備	キャンプ内外の道路、配電網、給水施設、シェルター、公共施設の改善	ドホーク州
	生活物資配布	越冬・越夏物資配布	ドホーク州、ニネワ州
	シェルター、生計支援	キャンプ内住宅改善、住宅改善工事を通じた雇用機会提供	アルビル州
帰還民支援	水・衛生	給水網整備	アルビル州
	教育	学校の校舎修復・新設、学校備品供与	アルビル州、ニネワ州
	インフラ整備	配電網修復	ニネワ州
	生活物資配布	越冬物資配布	ドホーク州、ニネワ州
	技術訓練	職業訓練研修実施	ニネワ州
国内避難民支援 (ホストコミュニティ含む)	シェルター	戦闘による損壊家屋の修復	ニネワ州
	水・衛生	給水支援、給水施設整備、衛生環境改善	アルビル州、ニネワ州
	教育	学校の校舎修復・新設、学校備品供与	アルビル州
	学校保健	学校健診、治療、保健啓発活動の実施	ドホーク州
	インフラ整備	配電網修復、キャンプ間道路環境改善	ドホーク州、ニネワ州
SYRIA シリア	生活物資配布	越冬・越夏物資配布	ドホーク州、ニネワ州
	水・衛生	給水支援、給水・排水施設整備、衛生環境改善	アルビル州、ドホーク州、ニネワ州
	食料配布	国内避難民及び帰還民を対象とした食料キットの配布	ダラア県、デリゾール県、ハッサケ県
	生活物資配布	帰還民世帯の子どもを対象とした冬服の配布	クネイトラ県、デリゾール県
	住宅再建	帰還民及び帰還を望む国内避難民を対象とした、爆撃等により破壊された住居の修繕	アレppo県、ダマスカス郊外県、デリゾール県、ホムス県
PALESTINE ハレスチナ	教育	爆撃等により破壊された校舎の修繕	アレppo県、ダマスカス郊外県
	保健栄養支援	未就学児の健康診断、栄養治療、家族向け栄養研修および幼稚園の能力強化	デル・エル・バラハ県、ハーン・ユニス県、ラファハ県
	技術訓練	若者を対象とした職業技術訓練センターの設置および研修の実施	北ガザ県、ハーン・ユニス県、ラファハ県
AFGHANISTAN アフガニスタン	国内避難民・帰還民支援	水・衛生	給水施設、衛生普及
	復興支援	能力向上	NGO能力強化トレーニング
	カンダハル県	29,031人	
UGANDA ウガンダ	南スーダン難民支援	水・衛生、住宅再建	ウガンダ北部3つの難民居住区で半恒久住宅とトイレの建設や修繕、学校や市場でのトイレ建設や住民による衛生普及活動支援
	コンゴ民主共和国難民支援	衛生	チャカII難民居住区において、小学校へのトイレ建設、手洗いタンク設置や生徒・教員への衛生普及事業
SOUTH SUDAN 南スーダン	国内避難民・帰還民支援	水・衛生、医療	ジュバ市内3つのIDPキャンプを対象に給水衛生支援、帰還民を受け入れるコミュニティを対象に給水衛生、保健支援を提供
	ジュベック州、イマトン州、ジョングレイ州	221,394人	
KENYA ケニア	ソマリア難民支援 (ホストコミュニティ含む)	住宅再建	難民世帯への仮設住宅建設
	生計向上	キャンプ周辺地域住民への建設技能向上・起業支援	ガリッサ郡
	住宅再建	難民への現金給付型による恒久住宅建設支援	1,440人
MOZAMBIQUE モザンビーク	南スーダン難民支援 (ホストコミュニティ含む)	水・衛生	難民居住地区への給水バイパスの敷設、難民居住地区と周辺地域のトイレ建設や啓発などの衛生環境改善
	トルカナ郡	45,350人	
SAIKRON 被災者支援	生活物資配布	家屋修繕ツール、食糧及び生活用品、農業用ツールキットと種子の配布	ソファアラ州ニヤマタンダ郡、ドンド郡
	水・衛生	井戸や給水システムの建設、井戸管理委員会への研修実施	5,040人
	保健・医療	病棟と医療者養成校校舎の修繕、資機材供与	ペイラ市
ETHIOPIA エチオピア	南スーダン難民支援	衛生	難民世帯のトイレ建設、衛生啓発活動等の実施
	ガンベラ州	44,293人	
HAITI ハイチ	コミュニティ支援	防災、建設技術支援、衛生教育	コミュニティセンター4棟の建設、維持管理委員会の組織、防災教育および衛生教育
	南東アニケコムー	11,206人	



国/地域	支援内容	実施場所	受益者
SRI LANKA スリランカ	支援内容	実施場所	受益者
	帰還民再定住支援	農業、コミュニティ開発 地域産業活性化、コミュニティ開発 農業、酪農業、漁業、若手起業家に対する復興開発支援およびコミュニティセンターの修復	トリコマレ県 ムトゥール郡、カンタレー郡 トリコマレ県 ムトゥール郡、キンニヤ郡、クッチャベリ郡
	44,852人		
MYANMAR ミャンマー	帰還民再定住支援 および国際交流	農業・地域活性化 トリコマリー郡の再定住地域の農家と広島県神石郡神石高原町の有機農家との農業を通じた国際交流による地域活性化支援	トリコマリー県 ムトゥール郡、クッチャベリ郡、バダビシラ郡
	トリコマリー県 ムトゥール郡		
NEPAL ネパール	難民帰還促進支援	水・衛生	給水施設の建設および維持管理研修や衛生教育講習の開催
	カレン州、モン州、タニダリ地域	25,813人	
INDONESIA インドネシア	地震・津波被災者支援	シェルター・農業・給水・衛生	被災地における仮設住宅及び応急仮設教室の建設・給水施設の建設による水衛生環境向上と農地復旧事業・井戸建設とパイプ敷設による給水アクセス復旧事業
	中部スラウェシ州 ロンボク島スンパルン郡	11,222人	
	東ティモール	支援内容	実施場所
KOREA 韓国	山火事緊急支援	災害支援	緊急支援チームを派遣、生活物資や衛生用品配布
	江原道固城郡	600人	
JAPAN 日本	被災(害)者支援・教育	教育・子ども支援	若者育成のサマーキャンプ開催、被災地等からの参加者への奨学金支給
	広島県神石高原町、愛媛県上島町	キャンプ参加者28人	

※受益者の算出について：村でのインフラ整備など、地域全体が対象となる支援については、その地域の人口を受益者数としています。





イラク事業アルビル事務所の国際スタッフと現地スタッフ集合写真

Mayako Ushida

現場を支える支援のプロ

ピースウィンズ・ジャパン  
スタッフインタビュー

## 海外で最大の イラク事業を全力で 支える。

中東プログラムサブマネージャー

牛田 真也子

2001年、東京外国語大学インドネシア語学科卒業。2003年、米国タフツ大学フレッチャースクール修士課程法外交修士号取得。大学・大学院時代、人権擁護団体でのインターンや国内にいる難民申請者を支援する全国難民弁護団連絡会議の初代コーディネーター、ユニセフ駐日事務所インターンを経て、2003年にPWJに入団。以来、イラク、イラン、アフガニスタン、インドネシア、東ティモール、トルコなど計12か国の緊急人道支援をはじめ、復興開発支援活動に従事。

OVERSEAS OPERATIONS

# 海外事業

小学校のときの平和教育、これが私の原点です。一生かけて世界平和に貢献したいという想いから、“紛争が予防できたら、一般市民が巻き込まれて命をおとさなくてすむ”と強く考えるようになり、アメリカで修士号取得後、支援地での活動を通じ紛争の予防および解決に取り組むPWJに、迷わず入りました。

2019年度、イラク事業では約46万人の生活環境改善のために支援を行いました。大規模かつ迅速に支援を届けることができたのは、皆さまからのご支援に加え、一日でも早く受益者に必要な支援を届けたいという熱意のもと、昼夜問わず活動に従事してくれたチームの存在があったからです。特に、現地

スタッフの多くは自身も難民や国内避難民として厳しい避難生活を経験しており、避難している人びとの苦悩が痛いほど分かります。だからこそ、彼らの気持ちに寄り添い、長期化する避難生活の質が少しでも向上するよう、日々頑張っています。

PWJが設立以来支援活動が続けるイラクでは、近年の度重なる人道危機により、今なお多くの方が避難生活を余儀なくされています。また、戦闘による基礎インフラの破壊が深刻なため、帰還できない世帯が数多くいます。イラク事業では引き続きチーム一丸となり、彼らが尊厳のある生活ができるよう、支援活動を実施していきます。

## IRAQ | イラク | 活動期間 1996年～現在



### 様々な分野で大規模な支援を展開

イラク北部ニネワ州、ドホーク州、アルビル州において、シリア難民、国内避難民、帰還民、帰還民地域住民の生活環境改善のため、教育、水衛生、保健、シェルター、生計支援、インフラ整備、生活物資配布の分野で支援を実施しました。また、2019年10月中旬からのイラク北部への新規シリア難民流入に対し、キャンプ設備の整備や灯油の配布を行いました。



国内避難民居住区における給水支援

## SYRIA | シリア | 活動期間 2013年～現在



### 危機を生き抜く人々に尊厳ある生活を

2011年3月に勃発したシリア危機が長期化する中、武力攻撃によって避難を余儀なくされ過酷な状況に置かれている人々への食料配布、また、紛争で激しく破壊された場所に避難先から帰還した人々の住居の修繕、食料や子ども用の冬服の配布を実施しました。また、爆撃を受け使えなくなっていた地域の学校の校舎を改修し、安全な学習環境を整備する支援を行いました。



修繕した教室で、生き生きと学ぶ子どもたち

## PALESTINE | パレスチナ | 活動期間 2015年～現在



### 子どもの健康と若者の就職・起業をサポート

12年以上封鎖の続くガザ地区で顕著な5歳以下の子どもの貧血や栄養・発育不良などの健康・栄養問題を改善するため、地域の幼稚園で健康診断と啓発活動を行い、栄養に問題のある子どもの治療を支援しました。また同地区では、15～29歳の若者の失業率が67.4%、特に若い女性では70.6%にもものぼる厳しい状況にあるため、無収入の若者が仕事に結び付く技術と知識を身につけられるよう職業技術訓練事業を実施しました。



幼稚園での栄養教育(テスト)の様子

## AFGHANISTAN | アフガニスタン | 活動期間 2001年～現在



### 人々の生きる力を支える支援

治安悪化のためスタッフが入国できない状況が続いているなか、日本とアフガニスタンのNGOが連携して、組織強化に係る独自のカリキュラムを開発し、市民社会組織の能力強化事業を行いました。また、紛争・自然災害による国内避難民や隣国パキスタンからの帰還民および地域住民の生活環境を改善するため、飲料水のための井戸の設置や衛生普及講習、衛生用品セットの配布をアフガニスタンのNGOとともに行いました。



井戸が完成。水は生きるための必需品

## UGANDA | ウガンダ | 活動期間 2016年～現在



### 北部の南スーダン難民、西部のコンゴ民主共和国難民支援と2拠点で展開

ウガンダ北部の3つの難民居住区に長期滞在する南スーダン難民の中でも身体に障害を持つ方や高齢者など自ら建築できない世帯を対象に、住宅やトイレを建設し提供しました。また難民の子どもたちの増加で定員を超過している小学校や中学校でトイレの建設や学校保健委員による保健衛生活動の支援を行いました。西部ではコンゴ民主共和国難民らに対してチャカ川難民居住区で、小学校でのトイレ建設や衛生啓発など衛生支援を行いました。



中学生が簡易手洗いキットを設置



## SOUTH SUDAN 南スーダン | 活動期間 2006年～現在

### 和平への歩みを止めないためにも人道支援を継続

長期にわたった内戦と続く武力衝突、食糧危機の影響から人道危機が続いています。ジュベック州3か所の国内避難民キャンプでは給水衛生支援を、ジュベック、イマトンとジョングレイ州では、国内避難民を受け入れるホストコミュニティに対して給水衛生支援を行いました。イマトンとジョングレイ州では保健支援に現地NGOと協力して取り組み、安全な水・衛生施設や基礎保健サービス支援を提供しました。



改修した仮設共用トイレ

## KENYA ケニア | 活動期間 2012年～現在

### 難民と地域住民が平和的に共存していくための生活支援

北東部のダダーブ難民キャンプでは、高齢者や1人親など脆弱性の高い世帯を対象にソマリア難民への仮設住居の提供と、キャンプ周辺地域で暮らす若者への建設技能向上支援や起業支援を行いました。北西部のカロベエイ難民居住地区では、仮設住宅から恒久住宅への移行支援、給水パイプラインの敷設、世帯用や学校トイレの整備と野外排泄を防ぐ啓発などを通じて、衛生環境の改善を支援しました。



難民居住地区での学校トイレ建設(引渡式)

## MOZAMBIQUE モザンビーク | 活動期間 2019年～現在

### サイクロン被害緊急対応と復興支援

2019年3月に甚大なサイクロン被害を受けたソファラ州で、緊急支援として家屋の修繕物資、食糧及び生活用品、農業用ツールおよび種子の配布を行いました。その後は、被災者の再定住地域や受け入れコミュニティで井戸や給水システムを建設し、飲料水の不足の解消に取り組んでいます。またベイラ市では損壊した中央病院の病棟や医療者養成校の校舎の修繕を実施し、医療サービスの復旧に貢献しました。



給水場で水を汲む子どもたち

## ETHIOPIA エチオピア | 活動期間 2019年～現在

### 衛生啓発を通じて難民の自助努力を支援

南スーダン難民が暮らすガンベラ州クレ難民キャンプで、難民参加による世帯用トイレ建設を支援し約300基が完成しました。キャンプ内全人口を対象にした手洗いや水容器洗浄キャンペーン、戸別訪問によるトイレ清掃状況確認と衛生啓発活動、難民から成る水衛生委員会(63委員会)の能力強化研修、石けん代わりに灰など身近で費用のかからない代替衛生用品の普及等の活動も継続実施しています。



手洗いキャンペーンを実施

## HAITI ハイチ | 活動期間 2018年～現在

### 住民が自らの生命を守ることができる防災支援

毎年いくつかのハリケーンが襲来し自然災害が絶えないハイチの南部において、災害時にも使用可能で安全性の高いコミュニティセンターの建設を通して、地域住民へ災害に強い建設技術講習と施設維持管理講習を行いました。また災害時に備え、地域住民や児童たちに防災と衛生に関するワークショップを行い、地域全体の防災意識の向上と衛生知識の定着を目指しました。



小学生に手洗いの大切さを説明する

## SRI LANKA スリランカ | 活動期間 2009年～現在

### 内戦で荒廃した農地の復興と農業収入の多源化支援

内戦で荒廃した小規模灌漑施設の修復による農地復興を中心に、農家の収入源の多源化を目指しコメ以外の穀物や有機野菜栽培普及事業を開始しました。特に有機農法については、日本での交流研修を実施しました。その結果、事業地モデルファームでは現地オーガニック認証を取得、モデルファームを中心に周辺農家に対して啓発活動を進めることにより、関心が高まってきました。



Before  
修繕された小規模貯水池

After

## MYANMAR ミャンマー | 活動期間 2013年～現在

### 井戸建設による人々の衛生環境改善を支援

乾季になると井戸水などの水源が干上がり、飲料水不足に見舞われるカレン州の村落で、乾季でも安全な水が得られる井戸を建設しました。事業では、地域住民が自主的に井戸を管理できるよう研修を実施するとともに、手洗いの励行など衛生に関する意識の向上を目的とした講習も開催しました。さらに、地域行政のエンジニアには井戸や丘陵地の水源を使った給水施設などの専門的知識・技術の向上を目的とした研修を実施しました。



竹筒で水を担ぐ子どもたち

## NEPAL ネパール | 活動期間 2015年～現在

### 震災復興を支えるインフラと生計向上支援

2015年大震災の震源地シンドゥパルチョーク郡で安全な水を供給するための給水施設建設を継続しました。また震災復興支援の一環で、野菜栽培の技術・販売促進支援による農家の生計向上、伝統工芸品ダカ織の技術・販売技術向上支援によるダカ織名産地バクタプールの織り手の生計向上を目指しました。また2019年4月の竜巻と7月の洪水で被害の大きかった南部地域で食糧や生活物資の配布を行いました。



ダカ織を織る女性

## BANGLADESH バングラデシュ | 活動期間 2017年～現在

### キャンプ内診療所で基礎的医療と母子保健サービスを提供

ミャンマーから流入したロヒンギャ民族とキャンプ周辺住民に対する医療サービス支援を現地NGOと協力して継続しています。対象キャンプ内で24時間365日対応できる唯一の診療所として、受診者数や利用者満足度、施設でのお産、妊婦の産前検診率の向上が確認できました。さらに診療所から離れた地域へ赴き、検診や診察を行うアウトリーチ活動や家庭訪問による啓発活動も実施しました。



避難民キャンプ診療所での診察

## INDONESIA インドネシア | 活動期間 2018年～現在

### 地震・津波災害を受けた町で、段階に応じた支援を

2018年7月、8月のロンボク島地震、9月のスラウェシ島地震・津波災害において実施した緊急支援事業から復興期の事業として、ロンボク島では井戸建設及びパイプ敷設による生活用水の供給を実施しました。スラウェシ島では仮設住宅建設を終了し、生活用水及び灌漑用水の供給、液状化被害があった農地の整地、そして津波被害によって新しく形成された村へのトイレ及び給水施設の設置を実施しました。



ロンボク島での井戸建設の様子



## EAST TIMOR 東ティモール | 活動期間 2003年～現在

さらなる品質向上への取り組みを、生産者と共に継続

3集落に一次加工場を建設し、集落民が共同で使用するためのワークショップを開催、品質の向上と安定化を更に図りました。また、アグロフォレストリーを推進し、コーヒー以外の換金作物を混作し森の生物多様性と土壌の栄養を復活させる取り組みにも着手しました。さらに文科省の留学プログラム「トビタテ!留学JAPAN」の助成を受けた高校生を3ヶ月間受け入れました。



品質向上と安定化のワークショップ

## MONGOLIA モンゴル | 活動期間 1996年～現在

一人で生きていくための生活力や技術力を

貧困や親の育児放棄などの事情で、子どもの施設「ヴェルビストケアセンター(VCC)」に保護され生活している子どもたちへの支援を継続しました。子どもたちは集団生活をしながら、将来の自立に向けて生活や学業、専門技術を学んでいます。現在49人の子どもたちが一緒に生活をし、この1年間に3歳から7歳までの子どもたち7人を受け入れました。



VCCで学ぶ子どもたち

## KOREA 韓国 | 活動期間 2019年4月～5月

いち早く駆けつけてきめ細やかな支援を展開

4月4日韓国北東部の江原道で発生した大規模な山火事で、広範囲にわたり被害が発生し4,000人以上が避難を余儀なくされました。これを受け翌日、緊急支援チームを現場に派遣し現地提携団体の協力のもと、ニーズが高かった下着や靴下、洗剤、トイレトーパー、キッチンペーパー、ウェットティッシュ、洗濯物干し、常備薬セット、ビタミンなど避難所生活に必要な生活物資を届けました。



韓国江原道山火事後

## CHINA 中国 | 活動期間 2020年1月～3月

COVID-19に対応して迅速に医療物資提供

中国の武漢市を中心に発生していた新型コロナウイルス感染症に対応し、上海に調査員を派遣して支援のための情報収集を行いました。また提携団体と協力して、マスクや防護服などの医療資機材を上海や武漢の医療機関に提供しました。この支援で現地の方々との協力体制ができ、日本支援のためのマスクのお返しも頂きました。



中国貨物到着

How to support | 支援方法

「ピースサポーター」になってPWJの活動全般を支えてください。

月々 1,200円～

毎月の継続的なご寄付により、自然災害の被災者や紛争による難民などに必要な支援を届け、長期的に支えていただく支援プログラムです。

ピースサポーター 検索

<https://peace-winds.org/support/supporter>



台風15号被災者支援(千葉)で、患者搬送に付き添う稲葉



EMERGENCY DISASTER RELIEF

# 災害支援事業

Mototaka Inaba

現場を支える支援のプロ

ピースウィンズ・ジャパン  
スタッフインタビュー

### 災害時に本気で 1人でも多くの人を 救いたい。

災害緊急支援プロジェクト  
「空飛ぶ捜索医療団(ARROWS)」  
プロジェクトリーダー 医師

稲葉 基高

2004年、長崎大学医学部医学科卒業。大阪済生会千里病院千里救命救急センターなどでの勤務を経て、2013年、岡山済生会総合病院救急科医長。東日本大震災、熊本地震などの被災地での医療活動にも従事。2018年にPWJ入団。西日本豪雨や令和元年台風19号の被災地で医療機関や避難所の支援に入った。専門は救急集中治療、救急外科、災害医療。

私はこれまで、病院内でのキャリアに全力を尽くしてきました。一方で、災害医療や地域医療、高齢者医療などの分野で様々な課題を感じていました。医師が病院外だからこそできる社会貢献があるのではないかと考え、PWJに入団しました。入団後は度重なる災害発生に対する緊急支援活動と、へき地医療という二つの社会課題の解決に全力を尽くしています。

2019年度も国内では災害が相次ぎました。特に台風15号と19号による被害は全国に及び、日本のどこに住んでいても、現在の環境変化と気候変動の影響を免れないことを実感することとなりました。PWJは豪雨や台風の子報があると情報収

集を実施し災害の可能性がある場合、医療チームやレスキューチームを派遣します。ヘリコプターやボートを駆使して「1分1秒でも早く支援を届ける」ことを使命として活動を続けています。

近年、日本近海の海水温は上昇しており、今後も国内での水害等の自然災害発生が予想されています。私たちは、支援をより迅速かつ効果的に実施するため、「空飛ぶ捜索医療団(ARROWS)」プロジェクトを立ち上げました。万が一の際には1秒でも早く、1人でも多くの被災者を救うために活動を行いたいと考えています。今後は自治体や病院、NGOなど他の関係機関との訓練にも取り組んで有事に備えていきます。



## 東北復興支援

活動期間 2011年～現在



オーダーを受けて新しいかご作りに励む人

### 現地NPOのサポートを通して、地域に憩いの場を提供

宮城県南三陸町に建設された交流拠点の運営と現地NPOのサポートを通じて、高齢者や地域住民が気兼ねなく安心して楽しい活動が続けられる環境づくりを継続し、現地NPOが自立運営できるサポートをしました。仮設住宅の撤去工事が進む南三陸町の地域住民にとって憩いの場はとても大切です。

## 西日本豪雨被災者支援

活動期間 2018年～現在



学生を対象にした地域の防災についての学び

### 地域の絆を取り戻し、災害に強いまちづくりを

岡山県倉敷市真備町で、引き続き地元の活動団体と連携し、地域コミュニティの再構築と災害に強いまちづくりに向けた活動を行いました。いまだ多くの人が仮設住宅での生活を余儀なくされ、地域の絆が希薄になっています。サロン活動や各種イベントを通じて、今後の真備を築いていく機会を提供し、安心して住み続けられる地域づくりのための防災の取り組みをサポートしています。

## 九州北部豪雨被災者支援

活動期間 2019年8月～9月



大町町の避難所での炊き出しの様子

### 物資・医療・炊き出しなどの緊急支援を実施

豪雨が発生した九州北部の被害を受け、佐賀県に医師を含むレスキューチームおよび救助犬を派遣しました。避難所で医師による診察を行ったほか、救急病院への搬送支援を実施しました。また、避難所などに支援物資を届け、ペット同伴避難者に対してペット用品を配布しました。さらに、西日本豪雨の被災地の団体と連携し炊き出しをしました。

## 台風15号被災者支援

活動期間 2019年9月～2020年1月



患者搬送支援

### 医療・物資などの緊急支援およびボランティアセンター運営支援を実施

上陸時の勢力が関東としては過去最強クラスの台風15号の被害を受け、医師を含むレスキューチームを派遣しました。停電した病院から自衛隊や消防と協力し患者を搬送したほか、千葉県南部の病院での診療支援にあたりました。また、避難所への物資支援や鋸南町のボランティアセンター運営支援、ブルーシートによる屋根補修の講習支援などを行いました。

## 台風19号被災者支援

活動期間 2019年10月～現在



病院前の泥かきの様子

### 医療・衣類などの緊急支援および家電の提供支援を実施

広域に被害をもたらした台風19号の発生を受け、医師、看護師、災害救助犬を含むレスキューチームを長野県に派遣しました。水没し停電した病院からDMATなどと連携して約240人の患者搬送をしました。また、避難所に対する衣類などの物資支援を行いました。12月からは、宮城県内の全壊・大規模半壊世帯を中心とした被災者に対する家電の提供に取り組みました。

## 災害に備え、緊急支援プロジェクト「空飛ぶ捜索医療団」をスタート

災害時の緊急支援プロジェクトである「空飛ぶ捜索医療団(ARROWS)」は、2019年12月に発足しました。これまで、PWJをはじめアジアパシフィック・アライアンス・ジャパン、CIVIC FORCEという3団体合同で活動してきた災害時の緊急支援活動を、医療を軸に強化し、支援をより迅速かつ効果的に実施するために、新たに立ち上げたプロジェクトです。近年頻発している水害や、今後30年以内に高い確率で起こると発表されている大地震などへの対応、さらに感染症流行時の複合災害を考えると、より大規模に、かつ効

率的に展開できる支援体制を整えることが必要です。そこで私たちは、被害が予想される自治体や近隣の医療機関、支援団体などと有事の際、スムーズな連携ができるように、平時のうちに災害支援協定を結び、防災訓練等を通して連携強化を図っています。また、活動に参加して緊急支援を行いたい全国各地の医療従事者等の登録制度をスタートさせ、平時のうちから一緒に訓練を行い、災害支援に関する研修プログラムを提供するなどして、より多くの方々と共に大災害に立ち向かえるように準備を進めています。



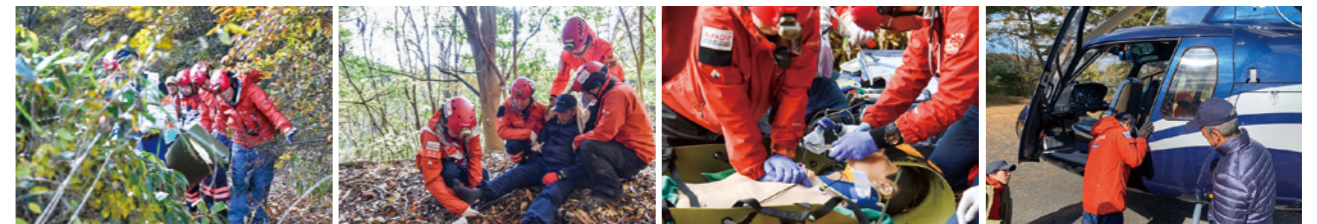
ARROWS  
空飛ぶ捜索医療団



コミュニケーション部  
ファンドレイジング担当 兼  
国内事業部  
ピースウィンズレスキューチーム  
ロジスティクス担当

会沢 裕貴

1987年、茨城県生まれ。2012年、新潟大学大学院修士課程修了(建築学)。まちづくりのコンサルティング会社、地域おこし協力隊、NPO法人コミュニティ・オーガナイズ・ジャパン等の勤務を経て、2018年にPWJに入団。2018年北海道胆振東部地震、2019年台風19号(長野県)などに緊急支援チームとして出動。2019年、「空飛ぶ捜索医療団」の立ち上げに関わる。



How to support | 支援方法

「ARROWSサポーター」になって災害緊急支援活動を支援してください。月々1,000円～

「空飛ぶ捜索医療団(ARROWS)」の活動は、全国のみなさまのご支援・ご寄付によって支えられています。一秒でも早く、一人でも多くの被災者を助けるために、長期的に支えていただく支援プログラムです。

ARROWSサポーター 検索

<https://arrows.red/donation/>







保護犬(トッポ)を抱き、健康状態を確認する安倍

PEACE WANKO

# ピースワンコ事業



Makoto Abe

現場を支える支援のプロ

ピースウィンズ・ジャパン  
スタッフインタビュー

不幸な犬をもう1頭も増やしたくない。

ピースワンコ・ジャパン / プロジェクトリーダー

安倍 誠

2007年、札幌大学経済学部経済学科卒業後、食品製造販売会社にて営業職。その後、出身地・北海道で乗馬インストラクター業務や馬の繁殖・育成業務に従事。2013年、ピースウィンズ・ジャパンに入団。

日本では未だに、引き取り手が見つからない捨て犬や野良犬は、最終的に全国の動物愛護センターで殺処分されています。ドリームボックスと呼ばれる殺処分機の中に、犬猫をゴミのように詰め込み、二酸化炭素を注入して窒息死させます。決して安楽死ではなく、恐怖や悲しみの中で、もがき苦しみ最期を迎えます。私はこの殺処分という目をそむけたくするような光景を、とある愛護センターでみたことがきっかけとなり、PWJに入団することとなりました。

PWJが広島県で殺処分対象犬の全頭引き取りを開始してから4年。決して平坦な道のりではなく度重なる困難や逆境を乗り越え、「殺処分

ゼロ」を実現している今があります。

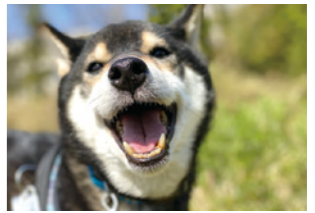
無謀な挑戦は止めると言われることも、悪意のある批判や中傷を受けることもありました。しかし、立ち止まることは出来ません。殺処分の一歩手前で「助けてほしい」とする思いで待っている犬達があります。見捨てることは出来ません。助けを求める犬の為に、どんな困難でも乗り越えていこうとスタッフ一同強い気持ちを持ち、そして、支えて下さる多くの支援者の方々と共にプロジェクトを進めてきました。いつの日か広島だけではなく日本中の「殺処分ゼロ」を実現するため、まずは目の前にいる命を助け、幸せにすることから一歩一歩前に進んでいければと思います。

## 犬・猫の保護・譲渡事業 | 活動期間 2010年～現在



### 日本の殺処分ゼロを目指す保護犬事業

2016年4月から続く広島県内での犬の「殺処分ゼロ」が2019年度末で1,400日を超えました。また、今年度の譲渡・返還数は648頭になり、これまでの累計で2,000頭を超えました。県や他の保護団体との協力を強め、収容頭数の増加を最小限にとどめる一方、野犬のトレーニングを強化し、譲渡数を伸ばすことに努めました。また、引き続き施設やデータ管理の改善、発注の効率化など、運営体制の強化に取り組みました。



春のお散歩(生駒譲渡センター)

### 施設は現在、全国で8ヶ所。

広島(広島市、福山市)のほか、岡山(岡山市)、奈良(生駒市)、神奈川(藤沢市)、東京(世田谷区、あきる野市)に7カ所の保護犬譲渡センターを常設。神石高原シェルターで保護し、健康状態を良くして、人馴れトレーニングを行った犬が、各譲渡センターで暮らしています。スタッフが日常の世話をしながら、里親希望の方に保護犬の特徴や性格などをご紹介します。

JINSEKI KOBEN

#### 神石高原シェルター

ピースワンコ・ジャパンの本拠地は、自然豊かな広島県神石高原町にあります。広々とした西日本最大級のドッグランもあり、犬と愛犬家のがびのびと遊べます。広島県神石郡神石高原町上豊松72-8



HIROSHIMA

#### 広島譲渡センター

広島県広島市西区観音新町4-14  
ショッピングモール「広島マリナーポップ」内



FUKUYAMA

#### 福山譲渡センター

広島県福山市東深津町2丁目9-15



OKAYAMA

#### 岡山譲渡センター

岡山県岡山市北区田中109番地103



IKOMA

#### 生駒譲渡センター

奈良県生駒市北大和1丁目23-1  
KS,CITY北大和1



AKIRUNO

#### 東京あきる野譲渡センター

東京都あきる野市上代継600番地  
「わんだふるネイチャーヴィレッジ」内



SETAGAYA

#### 世田谷譲渡センター

東京都世田谷区桜丘3丁目23-2  
馬事公苑アーバンフラット1-A号室



SHONAN

#### 湘南譲渡センター

神奈川県藤沢市辻堂元町6丁目20-1  
湘南T-SITE1号館GREEN DOG内



### How to support | 支援方法

「ワンだふるサポーター」になってピースワンコ事業を支えてください。

月々1,000円～

ピースワンコ事業を継続的にご支援いただくプログラムです。保護した犬の新しい飼い主が見つかるまでの飼育や災害救助犬の育成費用などに使わせていただきます。

ピースワンコ 寄付

検索

<https://peace-wanko.jp/support.html>





# 地域創生事業

## 佐賀 | 活動期間 2015年～現在



事業者、デザイナーと綿密な商品開発打ち合わせ

### 伝統工芸のつくり手とつかい手をつなぐ支援事業

ふるさと納税返礼品提供の伝統工芸事業者数は50以上となり、販路の拡大に取り組みました。デザイナーとのコラボによる商品開発プロジェクト「ピースクラフツSAGA EDITION」は2年目を迎え、有田焼と鍋島緞通の計4事業者が参加。WEBサイト (<https://peace-crafts.org/>) では新たに佐賀の伝統工芸紹介の英語版を制作、工房紹介もその数を増やし、情報発信に努めました。2019年8月の九州北部豪雨では医療や物資、炊き出しの支援を行いました。

## ピースワラベ | 活動期間 2018年～現在



サマースクールの参加者たち

### 被災地や紛争地の若者を支援し、彼らの夢を再び輝かせる

広島県神石高原町と愛媛県上島町を舞台に、難民や災害で被災した子どもを含む国内外の中学・高校生を対象としたサマースクールを開催しました。今年は11の国と地域から28名の参加者を迎えることができました。

## 地域創生 (広島県神石高原町) | 活動期間 2015年～現在



訪問診療を行う坂田医師

### 中国地方の過疎地で地域創生モデルを作る

広島県神石高原町の町立病院や診療所でPWJ医師が診療を支援し、在宅患者の訪問診療にも取り組みました。庄原市でのレストラン等の運営を終了する一方、神石高原町の体験型観光パーク「神石高原ティアガルテン」の運営支援を続けました。

## 地域創生 (瀬戸内・豊島) | 活動期間 2014年～現在



上島町の海の駅

### 瀬戸内海の地域振興を。芸術作品の公開や海の駅の運営

引き続きNPO法人瀬戸内アートプラットフォームと協力して、瀬戸内海の豊島(とよしま)で現代芸術家ゲルハルト・リヒターの立体ガラス作品を一般公開し、アーティストやアート関係者を招へいしました。また、愛媛県上島町の委託による「海の駅」の管理業務を継続しました。

他にも! 「ふるさと納税」もご利用いただけます。

ピースワンコ・ジャパン事業や佐賀伝統工芸事業、災害緊急支援事業などPWJのいくつかの事業はふるさと納税でのご支援も可能です。ご寄付が一定額までなら、2,000円を除いた金額が所得税・住民税から差し引かれます。詳しくはポータルサイト「ふるさとチョイス」をご覧ください。

PWJ ふるさと納税 検索

<https://peace-winds.org/support/furusato>



# ABOUT US 団体情報

## ビジョン

人びとが紛争や貧困などの脅威にさらされることなく、希望に満ち、尊厳を持って生きる世界をめざします。

## ミッション

紛争や自然災害などにより、生命が脅かされている人びとに対し、迅速に緊急人道支援を行います。

社会的基盤の崩壊などにより、困窮している人びとに対し、自立のための復興・開発支援を行います。

支援地での活動を通じ、紛争の予防および解決に取り組みます。

支援の必要性に対する情報を発信し、市民の関心を喚起します。

援助システムをより効果的にするための提言を行い、その改善に取り組みます。

## 団体概要

2020年1月時点

名称	特定非営利活動法人 ピースウィンズ・ジャパン
設立	1996年2月
法人格取得	1999年10月
スタッフ数	計392人(本部スタッフ97人、事業スタッフ295人)
役員	代表理事 大西 健丞
理事	石井 宏明 桑名 恵 渋谷 健司 三宅 登志子 山本 理夏
監事	川合 孝一

法人・団体の  
皆さまからのご支援を  
お待ちしております

PWJには人道支援、被災地支援、災害医療、動物福祉など、各分野のプロフェッショナルスキルを持つスタッフが在籍しています。ご寄付を頂くだけではなく、SDGs、ESGに取り組む企業や担当者の方々と一緒に、新たな事業形成にも取り組んでいます。

## ご支援方法・提携例

### ご寄付によるご支援

特定の事業またはPWJの活動全体に対して、企業の収益の一部をご寄付いただく方法です。

### 自社商品やサービスの提供によるご支援

災害時などPWJが実施する事業に対して自社商品をご提供いただくご支援方法です。

### 顧客への寄付機会の提供によるご支援

ポイントやキャンペーンを通じて活動をご支援いただく方法です。

### プロパティを活用したご支援

店頭での募金箱の設置やイベントスペースのご提供、オリジナルグッズの販売を通してご支援いただく方法です。

### ナレッジ・スキルを活用したプロボノ支援

システム構築やマーケティングアドバイスなどを通じてご支援いただく方法です。

### 本業を活かしたご支援

寄付付き商品の販売などを通じてご支援いただく方法です。

お問い合わせ・ご連絡先

コミュニケーション部 企業連携担当

E-mail [sales@peace-winds.org](mailto:sales@peace-winds.org)

WEBサイトのフォームからも  
お問合わせいただけます

<https://peace-winds.org/support/company>





# SUPPORTER

企業や団体からのご支援

PWJは企業や団体の皆さまを大切なパートナーと考え、連携を重視しています。  
今後も企業や団体の皆さまと連携を深め、より社会に貢献できる活動を目指します。

## 2019年度高額寄付、協力企業・団体



J.S. Foundation / シャディ株式会社 / ソフトバンク株式会社 / 中日新聞社 / 株式会社チュチュアンナ / 日本たばこ産業株式会社 / 生活協同組合 パルシステム東京 / 丸中製菓株式会社 / 三井化学株式会社 / メットライフ生命保険株式会社 / ヤフー株式会社 メディアサービスカンパニー / 株式会社ユニテッドアローズ / READYFOR株式会社 / 株式会社ワンモア / FCAジャパン株式会社 / 株式会社大林組 / かみひとねっとわーく京都 / 株式会社キリンビバックス / 株式会社ジェーピーツーワン / 新宿レッドクロス / 株式会社ストラテジック・シナリオ / 株式会社高橋ヘリコプターサービス / 株式会社タツミ建築 / ネセサリー株式会社 / ブックオフコーポレーション株式会社 / 株式会社プレーリードッグ / マネックス証券株式会社 / 株式会社祐真 / 株式会社UDG

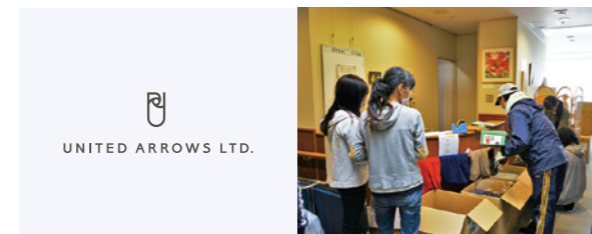
## 企業連携の事例

### 希望のボールプロジェクト 湘南ベルマーレ×ピースウィンズ・ジャパン



Jリーグに加盟する、プロサッカークラブの株式会社湘南ベルマーレ様のご協力をいただき、被災地や戦争被害を受けた世界の子どもたちに向けて使わなくなったボールを送る「希望のボールプロジェクト」を実施しています。これまでに、イラク、インドネシア・アチェ州、シエラレオネ、リベリア、南スーダン、パレスチナなどに届けてきました。2019年には前年にインドネシアスラウェシ島で発生した地震・津波で被災した子どもたちとサッカーチームに、ボール106個とユニフォーム300枚を贈りました。

### 台風19号被災者支援 ユニテッドアローズの衣料品配布



台風19号により大きな被害を受けた福島県いわき市でセーターやマフラー、靴などの衣料品を配布しました。配布した衣料品はセーターやマフラー、スヌード、子ども用の衣料など703点。全て、衣類や小物などを販売する株式会社ユニテッドアローズ様から提供されたものです。「これから寒くなるので冬物は本当にありがたい」、「明るい色の服が多く、沈んでいた気持ちが少し晴れた」など被災者の方々からは多くの感謝の言葉をいただきました。

# FINANCIAL REPORT

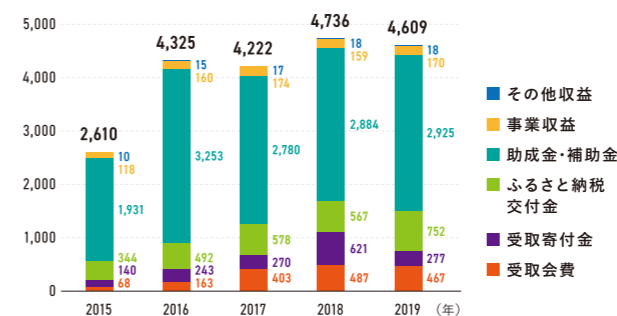
# 会計まとめ

2019年度は、3月に発生したモザンビークでのサイクロン被災者支援や、秋に発生した台風15号及び19号による被災者支援など、国内外の災害に対する新規事業への助成金及び寄付の収入が増加しました。混乱が続くイラク、シリア、パレスチナや南スーダン、多数の難民が発生しているケニア、ウガンダ、エチオピア、バングラデシュなど、紛争や迫害にさらされた人への人道支援への助成金、国連機関とのパートナーシップ事業の継続などによる収入もありました。国内外の緊急支援を強化することを目的に、医師を増員し、過疎地の病院や診療所で定期的な診療支援を行うとともに、「空飛ぶ捜索医療団 (ARROWS)」事業を立ち上げました。災害時だけでなく、緊急支援に必要なインフラ整備やスタッフ育成、登録派遣制度のメンテナンスなどの準備費用に対しても支援が集まるよう、努めています。保護犬事業では、広島県の犬の「殺処分ゼロ」の継続が1400日を超え、譲渡・返還数も累計2000頭になりました。年間の譲渡数は過去最高の約640頭に伸びるなど成果を上げる一方で、保護数に比例してあがる運営費用に対して、職員一同でコストカットに取り組みました。SNSでの発信や動画を活用した広報の強化に努めるとともに、インターネット広告による寄付の増額にも取り組みました。

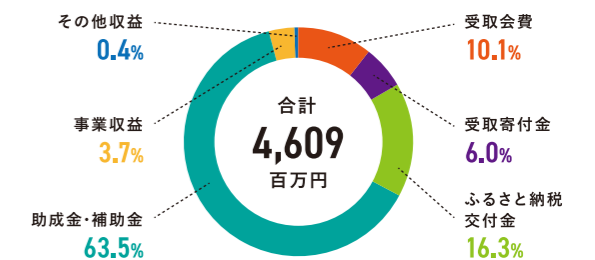
## 経常収入の推移及び内訳

経常収入は5年間で176%に増加しました。国内の事業拡大に伴い、2015年度に74%を占めていた助成金・補助金の割合は、2019年度は64%まで低下し、寄付・会費・ふるさと納税による収入割合が32%となりました。助成金収入では、米国際開発庁からの収入が前年比715%に増加、またUNWOMEN (国連女性機関)との事業など、新規案件を増やすことにも注力しています。

### 5年間の収入推移 (単位: 百万円)



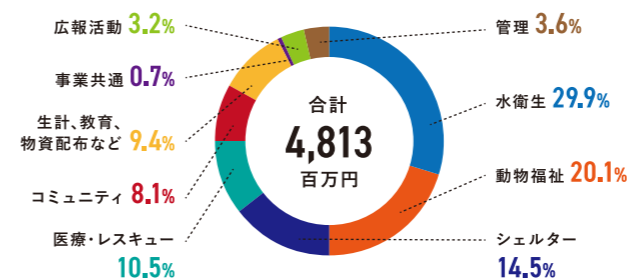
### 収入内訳



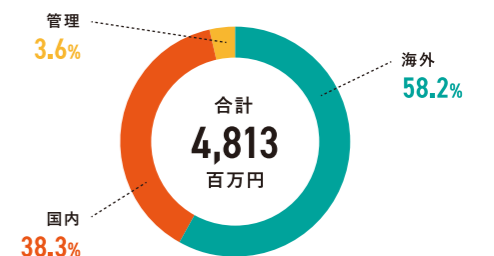
## 経常支出の内訳

2019年度の経常支出をセクター別に分けると、1位は、海外の難民キャンプや帰還民への支援で実施している水衛生支援 (30%)。2位は、保護犬事業などの動物福祉 (20%)、3位に海外の難民キャンプや帰還民支援でのシェルター (キャンプインフラ整備を含む) 支援 (15%) となりました。支出先として、海外事業に58%。国内事業に38%という結果になりました。

### セクター別支出額



### 海外・国内別支出額





# 2019年度会計報告

第21期事業年度 特定非営利活動に係る事業 活動計算書

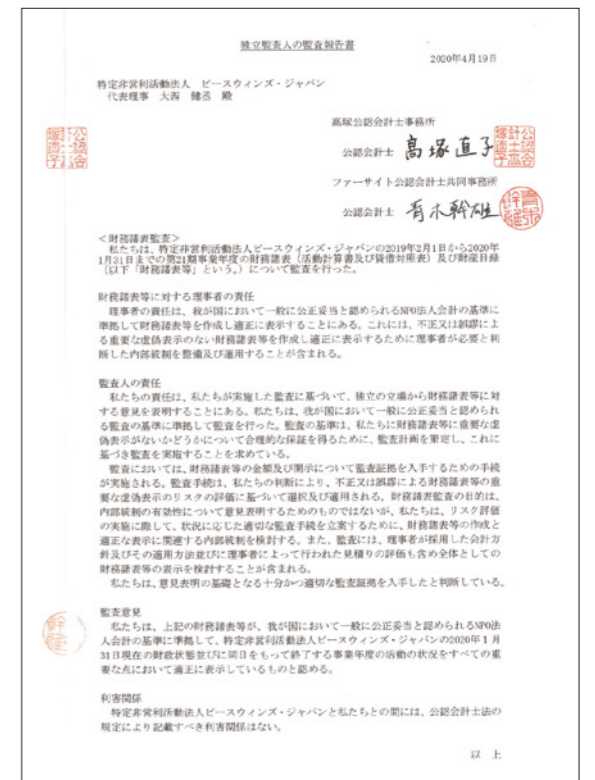
2019年2月1日～2020年1月31日まで

科目		金額(円)	
<b>I 経常収益</b>			
1 受取会費	正会員受取会費	2,710,000	
	賛助会員受取会費	905,000	
	ピースサポーター	26,188,412	
	ワンだふるサポーター	407,752,094	
	ワンだふるファミリー	26,085,000	
	その他受取会費	3,142,500	
			466,783,006
2 受取寄付金	受取一般寄付金	59,681,967	
	受取特定目的寄付金	215,616,805	
	物品・現物等寄付収入	1,760,839	
			277,059,611
3 受取助成金等	ふるさと納税交付金	752,073,445	
	受取民間助成金	1,969,379,178	
	受取補助金	380,650,490	
	国連等補助金	575,209,022	
			3,677,312,135
4 事業収益	フェアトレード事業収益等その他売上	87,754,678	
	業務委託	53,921,859	
	その他事業収益	27,876,513	
			169,553,050
5 その他収益	受取利息	1,338,036	
	雑収益	16,849,554	
			18,187,590
<b>経常収益計</b>			<b>4,608,895,392</b>
<b>II 経常費用</b>			
1 事業費	(1)人件費	1,018,985,581	
	(2)その他経費	3,623,281,360	
	事業費計		4,642,266,941
2 管理費	(1)人件費	42,299,392	
	(2)その他経費	128,863,993	
	管理費計		171,163,385
<b>経常費用計</b>			<b>4,813,430,326</b>
<b>当期経常増減額</b>			<b>▲204,534,934</b>
<b>III 経常外収益</b>			
	固定資産売却益	3,004,751	
<b>経常外収益計</b>			<b>3,004,751</b>
<b>IV 経常外費用</b>			
	固定資産除却損	2,127,693	
	助成金返還額	20,888,178	
	為替差損	41,315,633	
	支払利息	26,186,020	
	その他経常外費用	5,046,380	
<b>経常外費用計</b>			<b>95,563,904</b>
<b>税引前当期正味財産増減額</b>			<b>▲297,094,087</b>
<b>法人税、住民税及び事業税</b>			<b>883,700</b>
<b>当期正味財産増減額</b>			<b>▲297,977,787</b>
<b>前期繰越正味財産額</b>			<b>334,863,658</b>
<b>次期繰越正味財産額</b>			<b>36,885,871</b>

第21期事業年度 特定非営利活動に係る事業 貸借対照表

2020年1月31日時点

資産		負債及び正味財産	
科目	金額(円)	科目	金額(円)
<b>I 資産の部</b>			
1 流動資産		II 負債の部	
現金預金	1,034,254,473	1 流動負債	
海外現金預金	572,783,675	仮受金	170,733
売掛金	17,517,535	未払金	316,025,274
商品	37,961,333	未払費用	8,484,506
貯蔵品	11,364,920	預り金	9,583,148
未収入金	306,616,583	前受金	24,128
未収収益	9,535,466	短期借入金	640,000,000
立替金	2,055,973	1年内返済予定長期借入金	638,383,834
前払金	8,624,571	前受助成金等	1,604,385,717
前払費用	3,788,901	未払法人税等	883,700
仮払金	191,257,978	未払消費税等	4,073,200
未収補助金等	24,771,179	<b>流動負債合計</b>	<b>3,222,014,240</b>
預け金	1,395,681	2 固定負債	
<b>流動資産合計</b>	<b>2,221,928,268</b>	退職給付引当金	23,946,469
2 固定資産		リース債務	30,318,120
建物	550,108,087	長期未払金	8,186,269
建物付属設備	112,502,573	長期借入金	239,166,344
構築物	52,586,888	長期前受収益	558,655
車両運搬具	7,271,457	<b>固定負債合計</b>	<b>302,175,857</b>
工具器具備品	24,108,527	<b>負債の部合計</b>	<b>3,524,190,097</b>
機械装置	361,677	1 正味財産	
船舶	4,029,555	前期繰越正味財産額	334,863,658
航空機	1	当期正味財産増減額	▲297,977,787
生物	639,217	<b>正味財産</b>	<b>36,885,871</b>
土地	7,441,296	<b>正味財産の部合計</b>	<b>36,885,871</b>
美術品	450,000,000	<b>負債の部及び正味財産の部合計</b>	<b>3,561,075,968</b>
リース資産	27,313,041		
<b>有形固定資産計</b>	<b>1,236,362,319</b>		
電話加入権	385,392		
商標権	487,175		
水道施設利用権	317,554		
借地権	1,857,600		
<b>無形固定資産計</b>	<b>3,047,721</b>		
子会社株式	5,594,700		
投資有価証券	43,500,000		
出資金	50,000		
長期貸付金	26,407,330		
長期前払費用	2,155,667		
敷金及び保証金	22,029,963		
<b>投資その他の資産計</b>	<b>99,737,660</b>		
<b>固定資産合計</b>	<b>1,339,147,700</b>		
<b>資産の部合計</b>	<b>3,561,075,968</b>		



PWJは、高塚公認会計士事務所、  
 ファーサイト公認会計士共同事務所による  
 外部監査を受けております。





特定非営利活動法人

## ピースウィンズ・ジャパン

### 本部事務所

〒720-1622 広島県神石郡神石高原町近田1161-2 2F

TEL: 0847-89-0885 / FAX: 0847-82-2949

### 東京事務所

〒151-0063 東京都渋谷区富ヶ谷2-41-12 富ヶ谷小川ビル 2F

TEL: 03-5738-8020 / FAX: 03-3465-2112

### 佐賀事務所

〒840-0831 佐賀市松原1-3-5 まるなかビル 6F

TEL: 0952-20-1607 / FAX: 0952-20-1608

E-mail: [meet@peace-winds.org](mailto:meet@peace-winds.org)

Website: <https://peace-winds.org>

ピースウィンズ

検索

 ピースウィンズ・ジャパン

 @PeaceWindsJapan

### 寄付控除の対象です

PWJは「認定NPO法人」として広島県に認定されています。これによりPWJへのご寄付は寄付金の税金控除の対象となります。

(正会員会費は対象外です。)

### ご寄付は大切に使います

皆さまからのご寄付は、世界中の支援を必要としている人々のために大切に使用させていただきます。2019年度は、全収入のうち92.6%を事業費に、7.4%を管理費に使わせて頂きました。(PWJは、ご寄付額の最大15%を事務所の管理運営費、調査・提言活動のための費用などに活用させていただいております。)

事業費  
92.6%

詳しくは、支援者サービス係までご連絡、もしくはPWJのWEBサイトをご覧ください

TEL **0120-252-176**

平日 10:00~17:00

ピースウィンズ 寄付

検索

<https://peace-winds.org/support>

